

來禮。廿日、台旆入山、互賀歲華、先入書閣而密語、而後點心、座伴等持絕海而已、君復引余入書閣、道話商確古今、品評人材、因問佛乘宗門之樞要、余粗條嚮應對、君不覺前席、出閣打齋、行茶罷、君尙不起、于座談及晚而還駕、駕時謂余曰、未有新歲禮、今日禮謝、無用吉日、期與諸老同來參、余曰、謹聞命矣、廿三日、相國空谷來禮、仍約以參府、廿五日、詣于上府賀歲、余以賀歲故不敢啓恙、君卻問於余、余以實答焉、

武臣參賀

〔吾妻鏡十〕建久二年正月一日庚戌、千葉介常胤獻碗飯、其儀殊刷、是御昇進故云云、午刻前右大將家源出御南面、前少將家時家朝臣上御簾、先有進物、御劔千葉介常胤、御弓箭新介胤正、御行騰、沓二郎師常、砂金三郎胤盛、鷺羽納櫃六郎大夫胤賴、御馬一、千葉四郎胤信、平次兵衛尉常秀、二、白井太郎常忠、天羽二郎眞常、三、千葉五郎胤通、四、寺尾大夫業遠、五、庭儀畢上御簾、更出御于西面、母屋被上御簾、盃酒及歌舞云云、二日辛亥、御碗飯三浦介義澄沙汰三浦介義澄持參御劔、御弓箭岡崎四郎義實、御行騰、和田三郎宗實、沙金三浦左衛門尉義連、鷺羽比企右衛門尉能員、御馬一、三浦平六義村、太郎景連、二、三、四、五、三日壬子、小山右衛門尉朝政獻碗飯、御劔、下河邊庄司行平、御弓箭、小山五郎宗政、御行騰、沓同七郎朝光、鷺羽、下河邊四郎政能、砂金者、最末朝政自捧持之、自堂上參進、置御座前云云、次御馬五疋、

〔了俊大草紙〕武家に御引出物を進事は、鎌倉之宮將軍の御時、正月の碗飯の御引出物より始事云々、役人は立烏帽子に水干葛袴也、庭の座より持參しける也、沓をはきて參と云々、一番に御劔を進之、御劔のつかの方を我左の方にして、御劔の齒の方を上になして、むねの方を下に成て、兩方の足の所を諸手に取て持參して、御座の左の方に二尺ばかり隔て、左膝をつきて、御劔の甲金の頭を疊につけて、御劔を取なほしても、よせの方を御身の方になして、はかせ給べき様に進おきて、左の手をつきて畏て罷出也、次御弓征矢を進には、御弓を張て弦を前に成て、